Life・Culture & Welfare　地域から発信　福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第７６号

30 年間の活動実践、「掛川市初馬区・一膳会」の“居場所”に学ぶ
高齢者の孤食・疑似孤食をなくし、共に住み慣れた地域で暮らし合う喜び

２０２５年度の本会の活動テーマを「地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る」を掲げ、具体的には、①「研修事業」として、県内外の各地区の地域実践活動をもとに、“ご近所福祉”を検証し、身近な地域のあり方を議論する。②現場実践の機会を持つ（「若者発ご近所福祉かるた」の活用による、「近助」のあり方を各領域で学び合う機会を持つ）を基に、毎月の定例研究会で、各地の実践事例の資料等から、身近な生活領域の課題等を話し合ってきた。

このたび、長年、高齢者等と向き合う中で、高齢者の生きがいと生活改善を目的に、「集まる居場所」に取り組まれている、「掛川市初馬区・一膳会」（代表　袴田豊昭氏）を 12 月 12 日（金）に、(1)地域性の意義を学ぶ (2)集まる居場所の仕組を学ぶ (3)地域活動の継続のあり方を学ぶ (4)高齢者とのふれあい交流から“ご近所福祉”を学ぶ場等５つの着眼項目を掲げて、訪問研修することが出来た。

研 修 当 日 の 日 程

07:50　焼津発（移動：自家用車）
08:40　掛川市初馬「５区公会堂」着
08:50　「一膳会」代表袴田豊昭氏より、これまで 30 年間の活動の概要説明を聴く
09:00　(1)開会・自己紹介
09:10　(2)メリークリスマス
　(3)参加者とともに、介護予防体操・輪投げ・ゲーム・合唱で交流
　＊この間、男性スタッフ４名は調理
11:15 (4)和やかに、ふれあいクリスマス会食
12:15　(5)ご近所あれこれを紹介
12:30　(6)2 つのグループに分かれて、「ご近所」を語り合う
13:00　(7)閉会・参加者を見送る
13:20　(8)男性スタッフの皆さんと意見交換
14:00　掛川市初馬「５区公会堂」発
15:10　焼津着

これまでに、「一膳会」との交流は、「協働団体：静岡福祉文化を考える会」が、平成２７年度に、県民からの尊い赤い羽根募金による助成金事業で作成した「若者発　ご近所福祉かるた」を広く地域福祉教育教材として有効活用しようと、「かるた」が誕生した直後に、若者とともに、「一膳会」を訪問していたことが「静岡福祉文化を考える会機関誌 OUR　LIFE１０４号」（平成２８年４月１日発行）で次のように紹介されていた。

■ 掛川市初馬地区「一膳会」サロンで和やかに交流 ■

毎月第４金曜日に、地域の長寿者の皆さんがお寺の住職さん（袴田豊昭様）と過ごす「一膳会サロン」。　「若者発“居場所”あり方研究会」メンバー３名と共に、２月２６日(金)に訪問し、出来上がった「かるた」を持参し、和やかにふれあい交流をした。　日頃、お仲間に遠慮されている長寿者のＡさんなどは、めったに若者とふれあう機会が少ない環境にあって、この日ばかりは、大いに張り切った姿に、会場は大笑いのひと時であった。

“真の地域ぐるみの福祉教育実践活動”を学ぶことが出来ました。なんと、そこには、“自然体”であること、そして“楽しい”を共有していました。男衆７人が、平均年齢８９歳（最高齢者９８歳）の女性１４名を迎えた楽しいひと時を演出していました。

＊会場に到着した後、参加者がそれぞれ自己紹介をし、その後、袴田豊昭さんから、この３０年間の「一膳会」の取組を説明していただいた。

＊男衆スタッフによる会場準備が整ったところで、「メリークリスマス！」　手際よく、片付が終わり、次は「輪投げ大会」や「ゲーム」の数々。

＊和やかに、数々のゲームを楽しんでいる間に、男衆スタッフ４人が、腕を振るわせて調理に専念。本日は、「クリスマス特別メニュー」。

＊お仲間とご一緒のお食事はとてもおいしい。「みかん」や「イチゴ」の差し入れも。その後、２つのグループに分かれて「初馬ってどんなところ」をお聞きにました。あっという間に時間が過ぎていきました。男衆スタッフの皆さんに、地域活動への熱い思いをお聞きしました。

シリーズ③「若者発　ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、令和６年度の赤い羽根共同募金助成事業によりこの 10 年間にかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。
その結果を基に、漫画家 法月理榮様の多大なご支援（イラスト作画）をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。　本誌第７４号から「シリーズ」で紹介している。

第３回は「居場所・サロン　年間計画で、定例開催日にプログラム化」

支援者中心の運営にならないように、利用者主体のひと時が過ごせるように、年間計画を作成し、運営にあたる支援者は、年間を通じて、「かるた活用日」を明確にし、対等に語れる環境に努めるとともに、利用者の地域環境を、かるたを通じて、支援者が学ぶ機会をもつ。

■進め方

＊利用者主体の居場所・サロンの運営に心掛け、年間計画に、定例の居場所・サロン開所日を明確にし開所日の基本的なスケジュールのもとで「かるたで語る」を30分程度組み入れて展開する。
＊一般的なかるた取りをしながら、利用者のご近所を「かるた」の「読み札」をもとに、順番に、利用者のご近所を紹介し、参加者全体に話題を共有する。
＊利用者の参加状況により小グループにして、それぞれ支援者は、各小グループに加わり進行にあたる。

■楽しさの工夫

＊「ご近所の出来事」を具体的に、「昨日の私のご近所の出来事」「うれしかったご近所の話」等を支援者が具体的に事例を紹介するとわかりやすい。
＊「かるた」の活用前に、支援者が、事前にご近所にまつわる話題を話しながら、語れる環境に努める。
＊「ジャンンケンゲーム」や「絵合わせゲーム」も導入する。

■留意点

＊競争意識を持った「かるた取り」にならないように、事前に展開方法を説明し、安全に留意する。
＊誰もが参加できる展開方法を、支援者相互に確認する。
＊利用者と支援者が対等な関係で、むしろ高齢者等から学び合う、和やかな環境づくりに努める。

「１１月定例研究会」における議論：各地の実践事例に学ぶ
持続可能なコミュニティ活動は、地域性を理解し合い、世代を超えてつなぐ努力

今年度は、「ご近所福祉」をいかにして創り上げるかをテーマに、定例研究会で意見を出し合っている。

「11 月定例研究会」では、まず、県内の活動事例資料から、「世帯数が増えている地域課題の認識」「平成の合併後のコミュニティ活動の維持から学ぶ」の２つの事例を基に、身近な地域における課題を再確認した。

(1)　「世帯数が増えている地域課題の認識」

＊年々世帯数が増加傾向にある地域を、外部の住民から見ると、「若い人や子どもたちが多くいて、にぎやかで羨ましい」と感じている。 確かに、賑わいがあり、子どもたちの元気な姿を見ることもでき微笑ましい環境になっている。 しかし、現状は、長年、その地域に住む世帯（住民）は、既に、地域の役割を経験された、元気な年配者は、地域の中で見え隠れしている。一方、まだ、ここに転居してまもなく、地域のことがわからないという立場の会員は多く、役員選出時期が来ると、一苦労し、コミュニティ活動を維持していく上で、多くの課題が浮上している現実がある。

＊少数の長年在住年配者層からは、これからの地域運営は、若い世代が、積極的に「コミュニティ組織の存在意義」を認識して、積極的に地域活動に参加出来る環境づくりに努力してほしいという意見がある。

＊若い世代が積極的に地域活動に参画するには、常に、現状を具体的に、「見える化」「わかる化」していく情報発信の努力が必要となる。

＊ご近所の会員同士が雑談できる場つくり、日常的に、「組」で、集まる機会を工夫して、顔の見える環境をつくる努力をしていきたい。

＊「コミュニティ組織」をいかに維持していくべきか、地域全体で「社会教育領域」の中で学び合うことを考えたい。

＊行政の立場からも、地域活動の必要性を発信する課題はないだろうか。

＊本会では、これまで「児童・生徒対象調査」を実施してきた。そして、その結果を常に地域に発信してきた。
児童・生徒は、それなりに、「コミュニティ」に関心をもち、地域活動に参加の意向が回答結果から見られる。
大人社会は、地域活動を見える化し、積極的に、世代を超えて、地域活動参加の機会をつくる工夫をしたい。

＊「大人対象」「高齢者対象」の各調査も実施してきた。 この領域でも、呼びかけがあれば参加をする意向の回答は多い。地域活動のそれぞれの役割を明確にして、具体的な参加を呼び掛けることを心がけたい。

＊「コミュニティ組織」をみんなで創り上げ、子どもたちを育む「地域力」を創り出すためには、若い世代が、これからの地域創出に向けた結束を発揮する時期がすでに来ている。任期1年や2年で交代する役員選出による運営や、単年度計画による、地域活動では、なかなかつながらない。「継続的な地域活動計画」の策定の検討。

(2)「平成の合併後のコミュニティ活動の維持に努力されている M 地域の活動事例から学ぶ」

＊旧町の一地域であった「M 地域」は、平成の大合併を機に「推進会組織化」をするとともに、更には「一般社団法人組織化」し、合併前の地域活動の維持に努めている。

＊これからの地域組織の維持のために、中学生以上の住民アンケートを実施し、これからの地域づくりを検討している取り組みは、大いに学びたい。

＊これまで、合併前に取り組んできた各種事業を見直し、「単なるイベント事業」に取りくむコミュニティ組織から、「課題解決事業」として取り組む努力されているプロセスは意義深い。

＊全住民が積極的に地域活動に関心を持ち参画し、地域づくりに関心をもつかのプロセスは大切なこと。

●前月に引き続き、「身近な地域生活での困りごと」を２件、それぞれの立場で意見を出し合った。

困りごと（内容）	対象者の状況	自　助	共　助	公　助
免許証を返納した高齢者の移動手段	高齢者（高齢世帯）	ご近所との交流	地域内での支援組織化	乗り合いタクシー 自主運行バス運行
緊急時の連絡手段	障害者とその家族	ご近所との交流	連絡手段の共有 さりげない見守り	見守りネットワーク 民生委員活動

シリーズ⑳　若者発　ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成２７年度・令和３年度・令和６年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発　ご近所福祉かるた」（本会活動参画）を本誌第５７号から「シリーズ」で紹介。

今回は「よ　」「ら　」「絵札」は漫画家　法月理栄様が作画。＊かるた等の問い合わせは、054-624-1924　平田まで

よ　喜びをみんなで分け合う地域社会

ご近所の悲しみを皆で悲しみ、喜びを皆で喜び合いたいものです。「支え合う地域」を日頃から心掛けましょう。

ら　ライフワーク自慢のまちに創り変え

一人一人の力を合わせ、活動を継続すると自慢の街が出来上がります。地域参加は「生き甲斐づくり」。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見　（10/04～12/14）

10/04　焼津市Ｖ連絡協議会主催「令和７年度ボランティア研修会」に２名参加
10/11　10 月（第79 回）定例研究会開催　（12/12 掛川市初馬　袴田豊昭様居場所見学決定）
「協働団体：静岡福祉文化を考える会30年誌最終校正作業」「考える会30年誌配布提供一覧表作成最終作業」等協力（～11/15）
10/13　10 月（第79 回）定例研究会議事録作成・ブログアップ作業
10/14　掛川市初馬　袴田豊昭様宛、12月研修に関する事前情報の打診をする
10/20　焼津福祉文化共創研究会通信第75号（11月号）編集作業
10/27　磐田市関係者研修会で本会の活動を紹介
11/03　「掛川市初馬区一膳会」 袴田豊昭様との連絡調整
11/07　「掛川市初馬区一膳会」見学研修企画書」を作成し、正式に依頼文書を送付する
11/12　掛川市初馬　袴田豊昭様との連絡調整
11/14　「研究会通信第75号」が仕上がり印刷、会員宛に、11 月（第 80 回）定例研究会関係資料配布とともに、管内関係方面に「研究会通信第75号」配布・メール送信作業
11/15　11 月（第 80 回）定例研究会開催
12/05　「掛川市初馬区一膳会」（袴田豊昭氏）との連絡調整
12/12　「掛川市初馬区一膳会」見学研修会開催
12/14　12 月（第79 回）定例研究会開催
12/14　「研究会通信第76 号」編集、会員・関係方面に配布・メール送信作業
12/14　「協働団体：静岡福祉文化を考える会30年誌」印刷業者入稿

本会は、平成２８年度から３年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ６１４名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくろうと、令和元年度に結成し、７年目の活動を展開中。　身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会（「焼津福祉文化共創研究会」）への問い合わせは下記にお願いします。

〒425-0041 焼津市石津３丁目 10-8　焼津福祉文化共創研究会 平　田　　厚
TEL&fax054-624-1924　090-4861-4547
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

焼津福祉文化共創研究会ＱＲコード

協働団体：静岡福祉文化を考える会ＱＲコード